

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第166号(2021. 1. 1)  
事務局 川西地区自主防災会



## 新春対談



香川県危機管理総局長の寺嶋賢治氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩崎正朔氏のお二人に、新春対談をお願いしました。司会は香川県危機管理課の長谷川さんです。

### 【司会】

ただいまから、かがわ自主ぼう連絡協議会会報誌「防災・減災の輪」新春対談を始めます。よろしくお願いいたします。

### 【会長】

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

総局長には長くお世話になってはいますが、総局長は普通の県庁の人とは感じが違って、企業人のようだなと思っていました。丁寧さはもちろん、フットワークも軽い。名刺の渡し方もすごく洗練されていますね。



### 【総局長】

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

会長にそこまで言っていただいて、気恥ずかしいですけども、ありがたいです。

防災の業務も延べ5年目となり、会長の防災活動歴に比べたらまだまだですけども、何か困ったことがあれば、会長これどうしましょうと、いつも甘えさせてもらっていますし、本当に頼りになる人だなと常々思っています。

ただ防災というのは本当に大事だなとつくづく思っています。昭和51年に17号台風があったのを覚えておられるでしょうか。当時私の小学校が3、4日休みになりましたけれども、家の前が浸かったり、床下浸水があったりと、これは敵わない、防災というのは大事だな、と思いました。

会長は防災にはどういったきっかけで入られたのですか。

## 【会長】

私がかつて電電公社の室戸電報電話局で務めていました。台風が初めて来た時、寮で寝ていましたら、先輩が長靴を履いて飛んできて、「讃岐の人間はあかなこら！」ときつく言われました。要するに、台風の怖さをお前らは知らないのだということで、上品には言わない職人みたいな人でしたね。ただ、もう二度とこんなこと言われないように、讃岐人を馬鹿にされないようにしようと思いました。



そこで、台風時には、皆より早く起き、早く会社へ出て、災害にすぐ対応できるよう資機材をトラックに積んで、すぐに行けるようにしました。そうすると二度といわれなくなりました。それからは讃岐の快男児、と呼ばれるまでになりました。

電報電話局の中の設備系の人間でしたが、台風の緊急時には、局長の指示によって、唸り声のような風が吹く中、外の現場で作業をしたこともありましたね。

特に、気象台の専用線の通信確保に苦労しました。

## 【総局長】

そこが会長の防災活動の原点なのですね。身をもって台風の怖さを知っておられますし、通信が大事だということも含めて、今に結びついていますね。

## 【司会】

昨年は新型コロナウイルス感染症で自主防災活動にも大きな影響があったかと思いますが、岩崎会長はいかがですか。

## 【会長】

例年でしたら、学校・地域・福祉団体など、50 団体くらいと活動するはずでした、皆さんやはりコロナを気にしていたようです。そんな中でも、学校によっては、防災・減災活動のやり方をいろいろと考えてくれて、屋外で風通しが良く、密にならないようなグループ編成にしてやっていきたいと言っていたこともありました。

福祉団体からも、現在のコロナ禍が明けたら訓練をしたい、という声をいただいています。とにかく今は、このコロナ禍が明けるのを待っているところです。

## 【総局長】

確かに小さいころから学校で身をもって防災を学ぶのは大事だと思います。昨年はコロナ禍の中でも精力的に活動をしていただいて、本当にありがたいと思っています。

福祉施設に関しても、体に障害がある方や高齢者の方に身をもって覚えていただくためには、繰り返し、訓練していくことが必要だと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

ところで、昨年、訓練等を行う際に、注意されたことはありましたか。

### 【会長】

もちろん屋外優先で、グループの間隔を例年の3倍くらい空けています。グループ編成も、従来だったら、15人くらいにまとめて教えていましたが、現在は精々5～6人までの少人数を心掛けました。我々指導者も人数が必要ですがけれども、指導者ひとりひとりが、少人数に丁寧に教えることができました。

### 【総局長】

少人数だからこそ訓練時にはお互いにきめ細かいやり取りをすることができて、かえって良かったのかもしれないね。

### 【会長】

あとは資機材がたくさん必要になりましたが、例えば、心肺蘇生用のAEDの疑似体験の機材は10セット確保しています。だから、ほとんど心配なく、訓練できましたね。

### 【総局長】

資機材は非常に重要ですね。少し話は飛びますが、平成26年の長野県北部地震時に、長野県の白馬村であった「白馬の奇跡」が思い出されます。地域の実情をよく知っている地域の自主防災組織や消防団が資機材を使って、被害を受けた家屋等で救助活動を行い、犠牲者は1人もいなかった。この「白馬の奇跡」をもってもやはり資機材の重要性というのが認識されますね。



### 【会長】

ほかに力を入れているのは、避難所。特に避難生活の向上に力をいれています。

### 【総局長】

いわゆる避難所の環境整備ですね。

### 【会長】

救助は消防等、プロの人にどうしてもお任せしなければいけない側面があります。

しかし、早期に快適な避難所を立ち上げることができれば、災害関連死というものが少なくなるし、私はそれをゼロにしたいと思っています。

### 【総局長】

確かに避難所の環境整備も本当に大事だと思います。県でも今年度から、「災害に強い香川づくり」集中対策支援事業を立ち上げ、避難所の環境整備などを重点的にやるように頑張っております。ただ、去年は避難所におけるコロナ対策というのが非常に課題となりました。こちらに関しては、会長はどのような取組みをされていましてでしょうか。



令和2年度自主防災組織リーダー研修会での訓練の様子

### 【会長】

まずは避難所の入り口に検温スペースを配置するようにしています。さらに、手指のアルコール消毒は必ずしようということにしています。また、これまでも訓練等で段ボールパーティションは使用していましたが、それをきちんと区画ごとにおいて、隣の区画とは3m空けようという対応をしています。

### 【総局長】

先日のリーダー研修においても、訓練を拝見しましたが、県でも昨年6月に「避難所における新型コロナウイルス感染症対策指針」を策定し、県民の皆様にとって適切な避難行動をとっていただき、避難所に逃げるだけが避難ではなく、安全が確保された自宅にとどまるとか、知り合い等の家に避難するなどを記載しています。さらに、避難スペースの間隔を最低でも2m以上空けるということもお示ししています。

### 【司会】

去年は7月豪雨等の大きな風水害もありました。

### 【会長】

九州での豪雨災害の時、私は何も言っていないけれども、防災の仲間15人くらいが実は集まってくれていました。皆一週間くらい活動できるように、用意はしてくれていたけど、今回はコロナの関係で残念ながら行けませんでした。ただ、仲間が15人も腹をくくってくれていたのはうれしかったですね。

### 【総局長】

それはもう会長の人柄ですし、コロナ禍でそうした決意をしていただけたのはありがたいことですね。

### 【会長】

以前真備へ行った時も皆頑張ってくれました。多くのボランティアは朝の9時半くらいから作業を始めるのですが、14時にはほとんどボランティアが帰ってしまいます。ですが、私たちだけは17時までやっていました。

かがわ自主ぼうさん、もう帰っていいですよ、と現地の方は言うのだけれども、いやいや、むしろこれからやるんです、と言って頑張りました。涼しくなったら体が動くので、15時くらいまでしんどい仕事を残しておいたりしていましたね。土嚢作りも朝から晩までやりました。もう真備の人達は香川県には足向けて寝られないな、と言っていましたね。

風水害というところでは、うちも一級河川の土器川を抱えているし、10万トンを超えている大きいため池が2、3あります。一番大きいため池が、標高の高いところにあり、低い地域には多くの住宅があります。陸の津波ではないですけども、早く予見するということが大事ですね。

### 【総局長】

ため池が崩れかけているというのがわかればすぐに逃げなければならないですからね。



### 【会長】

水害を予測した訓練は夜間でもやっています。また、企業から合い鍵をいただいて、民間の空いているビルの2～4階までを借りられることになっています。そして、もし鍵を忘れてきても構わない、窓ガラスを割ってでも入れと伝えています。

### 【総局長】

命には代えられませんからね。

### 【会長】

以前の九州北部豪雨の話ですが、九州の知り合いが呼んでくれて、自治会長たちの勉強会に参加したことがあります。そこで、公的な避難所までは遠いにも関わらず、あくまでも公的な避難所へ逃げようとして、後ろから濁流に押し流されて亡くなった方がいた一方で、身近なところで、一時避難所をたくさん作っているところが、被害が少なかったという話を聞きました。

### 【総局長】

先ほどお話しした指針にも、多くの避難場所を確保することを記載しています。指定避難所以外に、一時避難所やホテル・旅館の活用など、様々な手段を使って避難所を確保しなければいけませんね。

## 【司会】

最後に、今年力を入れていきたい取組みについてお願いします。

## 【会長】

老健施設や障害者施設といった福祉関係施設、それから幼稚園やこども園といった子どもたちの関係施設等の施設と連携や情報交換をしっかりと、要配慮者対策を含めた、具体的に訓練に結び付けていけたらな、と思っています。避難確保計画のヒアリング調査もやっておりますが、いかに体調のすぐれない人等を階段で持ち上げたりして避難させるのが課題です。

それと今回、できるようでしたら一緒に土嚢作りをやりましょう、と施設に投げかけています。水害時に、建物の入口を土嚢で確保し、室内への浸水量を大幅に減少させることによって、要配慮者の皆さんを2階以上へ避難させることが可能となり、被害を少なくすることができます。昨年夏ごろにもさぬき市のある施設で土嚢作りをやりました。

## 【総局長】

要配慮者対策に力を入れていただけるということで、ありがとうございます。確かに災害が発生したら、高齢者等の要配慮者が多く被害を受けてしまいます。昨年の7月豪雨でも、熊本県の高齢者福祉施設で14名もの犠牲者が出たところがありました。そうした現状を見ましたら、高齢者などの要配慮者をいかに救うか、というのは課題ですね。

ところで、県ではスマートフォン用防災アプリ「香川県防災ナビ」を昨年4月から導入しました。普段から自分の避難所や避難ルートをハザードマップで確認できると、実際に河川の氾濫や地震等の災害が起きた時に、危険な地域にいる方に対してプッシュ通知を行う機能を設けています。また、お互いにグループにしている人の安否確認ができる機能も入っているので、どんどんダウンロード数を増やしていきたいですね。

## 【司会】

まだまだ談論風発といったところですが、このあたりで、新春対談を終わらせていただきたいと思います。本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。



本年もよろしくお願いたします！



# 事務局だより

令和3年 1月

新年明けましておめでとうございます。

会報発行に際し頑張ってくださいる裏方の皆様の抱負を紹介させていただきます。

今年もよろしく願いたします！

自主防災組織フォローアップ活動も3月で丸10年が経ちます。

アンケート調査から始めて10年、たくさんの仲間ができ、多くの組織と信頼関係が築けた10年です。「継続は力なり」私も見習って励みます！

山崎香里

会報の発送業務の中で「封筒の宛名書き」を担当しています。筆ペンを使用して送付先の住所・組織名・役職名・氏名を記入していますが、その日の体調によって書くスピードや字体のバランスなどに影響が出ます。本年も体調管理に気を付け、心を込めて宛名書きを行いたいと思っています。会報以外では、小中学校や福祉施設へ男性軍と共にフォローアップ事業に参加し、主に応急手当やコロナ対策を踏まえた避難所の受付業務のアドバイザーを務めています。今年も頑張りますのでよろしくお願いいたします。

岩崎シゲ子



一昨年から川西コミュニティセンターでお世話になり コミュニティセンターでする仕事は初めての内容ばかりで戸惑いながらも今期末で2年が経ちます。その仕事の中でも、防災訓練に指導役で香川県至る所へ出向いて防災訓練の指導をしています。まだまだ訓練指導を習得したわけではないです、今後指導できるよう頑張りたい。又川西地区地域づくり推進協議会のホームページの

内容をいいものにしていくため、IT関係（パソコン）の操作等未熟な点が多いのでスキルアップをしていきます。会報の宛名書きは150部を担当しています。

年齢も今年で古希を迎えます、生活、仕事の面でも迷惑にならないためにも健康管理に注意を払い社会貢献活動など周りの人のために役立っていきます。

河崎充雄



事務局で原稿作成・編集等を担当してます寒川です。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の波が香川県にも押し寄せ、自主ぼう活動にも様々な影響がありました。今年こそは穏やかな日々の戻ってくることを願ってやみません。

皆様どうぞお元気で！自主ぼう活動を頑張りましょう！！

寒川里美

## 編集後記

1月の防災減災の輪は、香川県危機管理総局長の寺嶋賢治氏と岩崎会長の対談を掲載いたしました。